

2016年8月19日

8月19日(金)、JR北海道より借り受けるSLが 当社南栗橋車両管区(埼玉県久喜市)に到着！

～2017年夏の運行開始に向けて、SL復活運転プロジェクトが進行中～

東武鉄道株式会社

東武鉄道（本社：東京都墨田区）では、2017年夏の日光・鬼怒川地区におけるSL復活運転に向けて準備を進めておりますが、2016年8月19日（金）、JR北海道より借り受ける蒸気機関車（SL）を当社南栗橋車両管区（埼玉県久喜市）に受け入れました。

SLは2016年8月12日（金）にJR北海道苗穂工場（北海道札幌市）を出発し、途中陸路、海路を経て、8月19日（金）に当社南栗橋車両管区（埼玉県久喜市）に到着しました。今後は、当社線内での運転に向けて、JR北海道で養成いただいた検修員が中心となって、様々な整備・改修等を行っていく予定です。

当社では、「鉄道産業文化遺産の復元・保存」「日光・鬼怒川地区の交流人口の増加による地域振興、ひいては栃木・福島エリアの支援活性化の一助」を目的として、鉄道事業者ならではの施策であるSLの復活運転に向け、引き続きSL検修・乗務要員の養成のほか、車両や施設の整備等を進めていきます。詳細は下記のとおりです。

1 到着した蒸気機関車（SL） C11形207号機（JR北海道所有）

2 運搬日程・経路

2016年8月12日（金）	陸路（トレーラー）にてJR北海道苗穂工場（北海道札幌市）出発
8月14日（日）	苫小牧港（北海道苫小牧市）到着
同日	海路（フェリー）にて苫小牧港出発
8月15日（月）	大洗港（茨城県東茨城郡大洗町）到着
8月19日（金）	陸路（トレーラー）にて大洗港出発
同日	当社南栗橋車両管区（埼玉県久喜市）到着



△ 苗穂工場で出発に向けて準備中のSL



△ 大洗港に到着したSL



△ 南栗橋車両管区に到着したSL

以上

※お問い合わせは、東武鉄道お客さまセンター ☎03-5962-0102

蒸気機関車（SL）復活運転の計画概要について

1 運転計画概要について

(1) 運転開始予定時期

2017年 夏目途

(2) 運転予定区間

東武鬼怒川線 下今市～鬼怒川温泉間 12.4km

(3) 所要時間

約35分/片道

(4) 運転日数

土休日を中心に年間最大140日程度（1日3往復程度）を予定



△運転予定区間

2 車両について

鉄道産業文化遺産の復元・保存にご賛同いただいた全国の鉄道会社からのご支援・ご協力を得て、かつてSL運転に使われていた時代の車両を貸与・譲渡いただき、運行する予定です。なお、SLの借受および車掌車・客車の譲受は、車両等の産業文化遺産の保存実績のある東武博物館が行い、ディーゼル機関車（DL）の譲受は東武鉄道が行います。

名称	車号	両数	借受元・譲受元
SL	C11-207	1両	JR北海道
車掌車	ヨ8634	1両	JR貨物
	ヨ8709	1両	JR西日本
客車	スハフ14-1、スハフ14-5、オハフ15-1、 オハ14-1、オロ12-5、オロ12-10	6両	JR四国
DL	DE10-1099	1両	JR東日本

SLの編成予定図 ←進行方向 [SL] + [車掌車] + [客車1] + [客車2] + [客車3] + [DL]

※客車の座席定員数は、約200席を予定。

3 施設について

(1) 転車台

JR西日本が所有していた下記転車台を譲渡いただき、設置に向けた整備を行っています。

名称	旧設置場所	譲受元	設置場所
長門市転車台	山口県 長門市	JR西日本	下今市駅（栃木県 日光市）
三次駅転車台	広島県 三次市		鬼怒川温泉駅（栃木県 日光市）

(2) 南栗橋検修庫の新設

SLの各種検査を行う検修庫を南栗橋車両管区（埼玉県久喜市）に新設しました。

(3) 下今市駅舎改修およびSL見学エリアの整備

SLの発着の拠点となる下今市駅は全面的に改修を行い、かつてSLが走っていた時代を彷彿とさせる昭和レトロ感のある駅舎に生まれ変わります。また、構内にはSLの雄姿を間近で見学できるエリアを整備する予定です。

4 検修および乗務要員養成について

検修および乗務要員の養成については、JR北海道、秩父鉄道、大井川鐵道、真岡鐵道に協力をいただき、教育・習熟訓練を進めています。

5 今後のスケジュール

2016年	9月頃	JR四国から客車を受け入れ
	12月頃	JR東日本からDLを受け入れ
2017年	4月頃	東武鬼怒川線にて試運転の開始
	夏目途	営業運転開始